視 察 ・ 研 修 等 報 告 書

令和　6年　6月　10日

北上市議会議長　様

北上市議会（会派）　北政会
代表　高橋　孝二

次の　視察　・　研修　について結果を報告します。

期間（期日）	令和6年　5　月　30日（木）から　5　月　31日（金）まで
視察先 視察内容 または 研修事項	東京「明治大学アカデミーコモン棟3階ホール」 「個性と魅力ある自治体づくりに挑戦する」 研修大会（研修内容）は別紙を添付
参加者	原　利光　　高橋　孝二

【内容及び所感】

＜所感＞（高橋孝二）

「地方自治体の目ざす道」吉川洋氏（財務省・財務総合政策研究所名誉所長）

・ＧＤＰ（国内総生産）とＧＮＰ（国民総生産）の違いは、国内で生み出された付加価値か、国民が生み出した付加価値かです。

例えば、日本人が海外での仕事で稼いだ場合は日本のＧＤＰには含まれないが、日本のＧＮＰには含まれる。逆に外国人が日本での仕事で稼いだ場合は、日本のＧＤＰに含まれるが、日本のＧＮＰには含まれない。日本の一人当たりの名目ＧＤＰは世界で2000年２位⇒2022年30位。（出所ＩＭＦ）

○日本はイノベーションが進んでいない。追いついただけで満足していたか、という指摘に共感。

「賢く収縮するまちづくり」青野高陽氏（岡山県美咲町・町長）

・少子高齢化社会は人口減少や歳入の縮小は避けられず、将来を見据えたまちのサイズに作り替えるために、住民と情報を共有し、住民にも「自分ごと」として考えて貰うよう納得いくまで説明し、議会とも激論を交わして、理解を得る事が出来た。

○住民の近くから公共施設がなくなることは殆どが反対する。議会からも計画の見直しの議論が強かったが、人口減少の事実（出生数平成18年124人⇒令和４年56人）を共有し、将来世代に負担を

残さず、そこに住む住民に幸せを感じて貰う「賢く収縮するまちづくり」の実践に感銘を受けた。
トップリーダーの見識と覚悟及び議会側の忖度のない議論に方地方自治のあり方を学んだ。

「デジタル導入の価値を考える」河野太郎（デジタル大臣・衆議院議員）

・人口減少社会が進行する中で、都市部中心に人が集まる。都市部以外の地域では人口減少が進み過疎化が加速される。人手でなくても出来る仕事（分野）は機械（ＤＸ・ＡＩ）に任せる。今までのようにアナログで対応することは出来ない時代に入っている。市役所の仕事が近くのコンビニが担う時代。行政の仕事は明治時代からの法律が継承されているものが多く、でデジタル時代に即した法的に整備しなければならない。

○デジタル化の進行は、行政業務の大幅な見直しが必要となり、オンライン診療とかオンライン学習（教育）を始め様々な分野で影響し変革が求められることは実感している。「全国のシステムは共通化し様式は統一、政策は自治体が判断する」は理解できるが、行政側の受け入れ態勢が全く不十分だ。

「都市の正義」が地方を壊す　山下　祐介（東京都立大学人文社会学部教授）

・長寿高齢化と少子化の中で、大都市圏への集中はもちろん都道府県でも都市部一極集中の現況は、世代間・地域間・職業間・男女間格差が生じている。「選択と集中」は都市中心の論理ではなかったのか。「中央集権」から「地方分権」へ。地方自治の再認識と、家族・地域・自治体の協働を取り戻す。

○言葉としては十分理解できるが、経済の仕組みはグローバル競争社会である。自助・共助・公助の役割と担い手は不明確。国民・市民の著しい政治離れへの対策。第一次産業の衰退を放置している現状。重要課題は多くあるが、地方自治を強化し地方分権を推進するためには現在の「財政の中央集権」から「財政の地方分権」化が必要であると思う。

＜所感＞（原　利光）

「政策議会」の理論と実践　土山希美枝氏（法政大学法学部教授）

○議員・議会という存在にたいする市民の理解と評価
（早稲田大学マニフェスト研究所「地方議員選挙マニフェスト活用実態調査２０２３」）

・『議員はまちの問題や議会の情報を伝えている』（アンケート）
（そう思う 30.5%、どちらともいえない 35.8%、そうは思わない 27.2%、わからない 6.5%）

・議会は何をしているのかわからない
（そう思う 50.7%、どちらともいえない 27.6%、そうは思わない 17.9%、わからない 3.8%）

・議員は何をしているのかわからない
（そう思う 52.7%、どちらともいえない 27.6%、そうは思わない 16.0%、わからない 3.8%）

○中央の調査ではあるが、何処の地域でも市民の声は総じて変わらない。議会・議員の求められていることに対して、議員個人が広く市民の声に反応して、議会では「ちゃんとモメ、ちゃんと治める」を見せる機構にしなければならない。

・地方議会開催告知で新聞紙上にある週刊誌内容掲載やチラシのような「秋の決算大審査会」の案内はとても目を引く取り組み紹介に共感。

「地方自治体と防災 DX」　令和６年能登半島地震を踏まえ

臼田裕一郎氏（国立研究開発法人防災科学技術研究所総合防災情報センター長）

・そもそも DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、新技術を導入することが DX ではない。いきなり DX を導入してもなかなかうまくいかないので階段を一段ずつ登っていくことが大事。

・なぜ、防災 DX が必要なのか。災害は強大化し、己は弱体化していて従来型の防災技術では対応できない。新しい「防災デジタルプラットホーム」を構築し「防災 DX 官民共創協議会（BDX）」で災害情報共有が出来る。情報的防災情報流通ネットワーク「ＳＩＰ４Ｄ」「防災クロスビュー」などの連携で敏速な災害対応になることが解った。情報は「インフォメーション」から「インテリジェンス」へ進化していく。官の状況認識、民の技術、学の知による共創が必要である。

※高橋孝二議員の所感と「テーマ」を重複しない項目に限定しました。

視 察 ・ 研 修 等 報 告 書

令和 6 年 10 月 25 日

北上市議会議長 様

北上市議会(会派) 北政会
議 員 原利光

私(会派)が参加した次の 視察 ・ 研修 について次のとおり報告します。

期間(期日)	令和 6 年 10 月 9 日(水)から 10 月 10 日(木)まで
視察先 視察内容 または 研修事項	トーサイクラシックホール岩手 「人口減少社会における地域の未来図」 「地方議会の課題と主権者教育」 「主権者教育の取組報告」

[報 告]

○「人口減少社会における地域の未来図」(菅義偉 第99代内閣総理大臣)	
○「地方議会の課題と主権者教育」	
コーディネーター	伊柳美紀 静岡大学人文社会科学部法学科 教授
パネリスト	土山希美枝 法政大学法学部 教授
	越智大貴 一般社団法人WONDER EDUCATION 代表理事
	渡辺嘉久 読売新聞東京本社教育ネットワーク事務局
	遠藤政幸 盛岡市議会 議長
○「主権者教育の取組報告」	
コーディネーター	川村和徳 東北大学大学院情報科学研究科 准教授
パネリスト	白鳥敏明 伊那市議会 前議長

諸岡覚　四日市市議会 議長（第83代議長）
服部香代　山鹿市議会 議長

［ 所　感 ］

○「地方議会の課題と主権者教育」
◇主権者教育の新たな展開では議長会による主権者教育の推進として
①地方議会の課題の、投票率の低下、無投票選挙の増加、議員の性別や年齢構成の偏りなど
②議会に対する関心を高め、理解を深める主権者教育を一層推進する。
③いわゆる出前講座や模擬議会など、議会が自ら主体的に行う主権者教育の取組支援を講ずる。
◇文科省通知「高等学校等における政治的教養の教育と高等学校等の生徒による政治的活動に
生徒が国民投票の投票権や選挙権を有する者として自らの判断で権利を行使することが出来る。
具体的かつ実践的な指導を行うことが重要。と記しているが現状とのギャップが大きい。
☆誰がための主権者教育なのか、議会は主導的には行わない方が良いと講義の中であり同感で
他方では、高校生議会を開催し主権者教育の一環とする議会があるが、教育をどのように理解し
授業時間数をという制約をふまえ教師の負担はどれ程なのかを考えているのだろうか。やらない
なく、どのような形が理想なのかを追求していくことが求められる。
◇若者の政治・社会への意識から考える主権者教育の必要性
①若者は、政治や社会をどう捉えているの？
政治に関心が特別低いわけではない。（愛媛の若者は低いが）
自分で国や社会を変えられると思っていない。（愛媛の若者はより思っていない）
社会のために役立ちたいとそこそこ思っている。（愛媛の若者は強く思っている）
・政治に関心がないから選挙に行かないというよりも、どうせ変わらないから選挙に行かないという
・一方で、社会のために役立ちたいとも思っている。
☆若者は、関心がないわけではなく、参加しても意味がないと思っている。
②学校現場における主権者教育の現状
主権者教育＝法律の話や選び方など、選挙についての知識や啓発を行う教育という認識が強い
☆政治的中立への過度な配慮があるが、それは学校が悪いわけではない。

③13年間の主権者教育の取り組み
よのなかをおもしろく学びあう、みんなで創る！その活動の〔カギ」と「キーパーソン」は
・どうやってする？　カギは『自分たちの行動で、国や社会を変えられる』感覚を持つ
・誰がする？　キーパーソンは『若者』
☆政治‘家‘との交流は、こども達の政治意識の醸成に大きく影響する。
○「主権者教育の取組報告」
①山鹿市議会の取り組んだシチズンショップ教室　～なりたい職業ランキングベスト10入りを目指し
課題、「開かれた議会になっていない」、「住民の理解と関心が得られていない」、「なり手不足」
◇議員のなり手不足の要因⇒どんな仕事かわからない
◇「民主主義」を学ぶ⇒政治に主体的に関わるために
・小学校でのシチズンシップ教室　「市議会について知る」「議員の仕事を理解する」
「市議会について知る」「議員の仕事を理解する」「選挙の意義や、投票の大切さ」
・関係機関の理解と協力者のもと、いよいよ学校へ
・ギカイを知ろう　「絵本で選挙を体験しよう」　～ぽりぽり村のみんしゅしゅぎ～
☆実際に子ども達が、投票⇒開票⇒結果を経験をして、自分たちのルールを決めた。
子ども達の感想でも、①議員がどんな仕事なのか分かった、②皆さんがしている仕事がしてみたい
③投票には興味なかったけど、一票がどれだけ大事で選んだ人によってどんな未来になるのか変
ことを知り、投票の大切さを知れた。
※研究フォーラムでの題材は、どこの自治体でも課題であり、進め方に工夫を凝らしながら悩んでい
主権者教育とはいうものの、教育機関、議会、市民団体などの協力が不可欠であると思う。
先進事例や　相互の情報交換を行い、衰退の無い地方自治体運営に取り組む必要がある。

視 察 ・ 研 修 等 報 告 書

令和 7年 3月 28日

北上市議会議長 様

北上市議会(会派)　北政会
代表　高橋 孝二

次の 視察 ・ 研修 について結果を報告します。

期間(期日)	令和7年 2 月 4日(火)から 2 月 5日(水)まで
視察先 研修内容 または 研修事項	地方議会研究会 1．質問づくりのためのデータの集め方 2．質問づくりの本質とは 3．実例で分る　質問で成果を上げる方法 4．役所にはぐらかされない　質問の組み立て方 （議会用務と重なったため欠席）
参加者	原　利光　　太田洋市　　高橋　孝二

【研修の概要】

1．質問づくりのためのデータの集め方

質問は、制度や行政の運用が現実にそぐわない部分を指摘します。客観的な情報と、現実との食い違いを指摘するためには、行政が認める情報源を知る必要があります。

(質問の前の段取り)

●市役所の一年　●質問をする議会のタイミング

●質問の構成から必要なデータを特定する

(質問を作る発想術)

●議会での質問の３つのスタイル　●スタイル別の必要な資料の視点

●質問を作る発想術

(資料の探し方)

●他市の先進事例　●地域経済分析システム（ＲＥＳＡＳ）　●人事行政の運営等の状況

●Ｏpenwork　●e-Stat 政府統計の総合窓口　●Ｃhiholog-地方議会議事録横断検索

(役所の資料は質問づくりの宝庫)

●決算審査意見書　●予算編成の留意事項　●留意事項から質問を作る具体例

2．質問づくりの本質とは

質問の目的を「行政を動かすこと」と設定しています。行政を動かすための質問の質問の基本

的な考え方を、職員の立場を理解すること。

（質問の目的）

●普通の質問と議会の質問の違い　●質問と質疑の違い

●オープンクエスチョンとクローズドクエッション

●国、都道府県、市町村の役割分担

（質問の基本）

●自治体職員の一般質問に対する正直な思い　●自治体議員と職員の違い

●職員からみて良い議員とは　●職員からみて嫌いな議員とは

●職員から尊敬される議員の特徴

（良い質問・悪い質問の具体例）

●悪い質問の具体例　●良い質問の具体例　●良い質問の「たちつてと」

（役所を動かす質問　黄金のフレームワーク）

●行政が動かざるをえない質問の構成　●質問の黄金のフレームワーク

●黄金フレームワークを使った質問の実例

３．実例で分る　質問で成果を上げる方法

行政を動かす質問の実例を元にして、どのような組み立て方、コツがあるのか

（行政を動かす質問のコツ）

●議会での質問の３つのスタイル　●行政を動かす質問のコツ

●説明責任を行政に負わせる質問方法

（提案型質問の実例）

●大規模住宅団地の浄化槽の老朽化　●給食費の公会計化

（追求型質問の実例）

●消防の広域化

（答弁調整-ヒアリング-で職員を動かす方法）

●自治体職員をやる気別に分類　●答弁調整で使えるフレーズ集

（質問しっぱなしは厳禁）

●行政が動くまで質問を行なう　●行政が動いたときは褒める

●行政が動かないときは詰める

（質問以外の政策実現方法）

●行政を動かす質問以外の方法　●議案修正件で行政を動かした具体例

４．役所にはぐらかされない　質問の組み立て方

情報は執行部が多く持っており、執行部が目指すのはゼロ回答です。執行部にゼロ回答させないためには、議会側の利点を最大限利用する必要があります

（質問は役所のレベルにあわせる）

●自治体の３つの累計　●自治体が次の累計に進むきっかけ

●自治体の３累計に応じた質問の方向性

（質問のゴールを設定する）

●質問のゴール・戦略目標とは　●行政が動くまで質問を行なう　●質問のゴールの例（よく

ある逃げ答弁への返し方）

●検討をします　●市で出来ることではない　●予算がない

（予算・決算での質問のポイント）

●監査委員と議会の違い　●決算は事業とセットでないとわからない

●「一人いくら」を確認する　●他と比べる

【所感】

太田　洋市：研修(CKセミナー)資料についての報告書

動画拝聴日時　令和７年３月２３日（日）９時　３０分　～１５時３０分

1. 質問づくりの本質とは

議会一般質問とは、「行政を動かすこと」であり、市民にプラスを届けることである。

資料から黒瀬先生は行政への質問は「行政を動かすための知的ゲームだ」と考えましょう。の文章がおおきく心に残りました。

そして、ゲームに勝つには「戦略・セオリーとロジックがある」と引き込まれました。

① 議員としての心構え(マインドセット)、

② 「質疑」と「質問」の違い。改めて、「質疑」：議案の質疑は疑問点を質し、自己の意見を述べること、及び意見に対する首長の考え方を問うことはできない。

「一般質問」は議長の許可を受けて行うことができる。行政全般にわたり、首長の姿勢、方向性、方策などを質すのが質問であり、議員からの提案もそれに対する首長の考えを聞くこともできる。この点の確認ができました。

③ 自治体職員の一般質問に対する正直な思いは、立場の違いから「経験者の言葉」を得た。

④ 良い質問の「たちつてと」や具体例もありました。

２、質問作りのためのデータの集め方

一般質問は制度や行政の運用が現実にそぐわない部分を指摘する。客観的な情報と、現実との食い違いを指摘するためには、行政が認める情報源を知る必要がある。

① 予算編成のサイクルを知る：適切な時期に働きかけることができる内容を質す。

② 質問の構成から必要なデータを特定し用意する。

③ 質問をつくる発想術。追求型、提案型、進捗確認型に３つのスタイルがある。

④ 資料情報の収集。分野別「知られたくない」資料一覧や人事行政の運営等の状況チェックポイント、他市の先進事例、地域経済分析システムの活用、openwork、e-Stat、chiholog

地元の声を拾い上げる、決算・予算の審査意見書は行政自身が発表する行政課題の宝庫である。

３、役所にはぐらかされない質問の組み立て方

情報は執行部が多くもっている、執行部が目指すのはゼロ回答。ゼロ回答させない工夫。

① 質問は役所のレベルにあわせる：３つの類型、３類型に応じた質問の方向性

② 質問のゴールを設定する：戦略目標、行政が動くまで質問を行うこと

③ よくある「逃げ答弁」への返し方

④ 予算と決算での質問のポイントは、

４、実例でわかる　質問で成果をあげる方法

①行政を動かす質問のコツ：議会質問の３つのスタイルとは、動かすコツとは、説明責任を行

政に負わせる質問方法

②提案型質問の実例

③ 答弁調整(ヒアリング)で職員を動かす方法

④ 質問しっぱなしは厳禁：行政が動くまで質問を行う。動いたときは褒める、動かないときは詰める

⑤ 質問以外の政策実現方法とは：行政を動かす質問以外の方法。議案修正の件で行政を動かした具体例　など

⑥ ４、研修動画を拝聴して、

⑦ 私に限らず、新人さんはより強く、動画と資料の拝聴と熟読をお勧めする内容でした。

⑧ 「今さら、」先輩議員の方々、議会事務局に尋ね難い部分や先輩誰しもが知っているようで教えてもらえない部分もありました。行政からだされている各種報告書や決算審査の意見書、予算審査の留意事項なども　たいへん勉強になりました。

⑨ 初任期での一般質問成果は①藤根十文字交差点改良拡張、隣接する藤根街道第二踏切拡張と北側への歩道設置工事着工を始め、他６件を取り上げ、それぞれの改善や進展があった。

⑩ いま考えると質問の口述や質問の方向性を修正すれば、もっと良い方向へ導くこと等ができたのではないか、と推察する。今後の議員活動、一般質問、常任委員会等に活用し、よりレベルの高い質疑及び質問に活かしていきます。

⑪ この教書は、議員年数に関わらず、手に取り熟読せずとも、より良い方向へ導いてくれるでしょう。若い方々へは「お薦め」の資料と考え、この動画・資料に巡り合ったことに感謝します。ありがとうございました。

原　利光　；　研修（CKセミナー）３月２２日～２６日

１　質問づくりの本音とは

・質問の目的

一般質問の目的は「行政を動かすこと」と設定し、議員は行政を動かすことで、市民にプラスを届けることが出来る。

・マインドセット（心構え）が一番大事であり、「職業的な懐疑心」「健全な批判精神」が必要で議員のときの人格は、普段の人格と違ってもかまわない。

・オープンクエスチョンとクローズドクエスチョンをうまく使いこなせることも必要だと思います。

・職員から見て良い議員（何もしない議員）では職員から馬鹿にされてしまいがちではあるが、職員からは嫌われないように心がける必要もある。

・良い質問をするにあたり、ヒアリングでのコミュニケーションでは「たちつてと」を意識することは勉強になった。

・行政に「動いた方が得だ」「動かざるをえない」と思わせるためには、質問を硬軟織り交ぜて使うことが効果的である。

２　質問のための情報収集

・質問の前の段取りでは、予算編成サイクルを知ることが大事で、どこで何が行われていることを知ることで、職員に適切な時期に働きかけることが出来る。

・質問には、適切で効果的なタイミングがある。

・質問の前に用意するのは、得たい果実から、必要なデータを特定し用意する。
・質問のスタイルとして、追及型、提案型、進捗確認型があり、議員の姿勢や目的に応じて使い分けは方が良い。
・質問を作る発想術として、役所が知られたくない資料は、多岐にわたり、Openwork、e-Stat、Chiholog などで入手出来る。
・役所の資料は質問づくりの宝庫である。

3　役所にはぐらかされない質問の組み立て方

・質問は役所のレベルに合わせる。自治体の３つの類型「前例踏襲自治体」「横並び自治体」「先進自治体」（講師の仮設）になると考える。「前例踏襲自治体」には追及型の質問、「横並び自治体」には政策提案型の質問、「先進自治体」には進捗管理型の質問が効果的である。
・質問のゴールを設定（戦略目標）することで、思いつきの質問から実のある質問に進化することが出来る。
・「行政に何をさせたいか」という目標を明確にして、一歩一歩近づけて行くように、逆算して、長期的な視野で質問を作る。
・提案には必要性と許容性が必要。この言葉は行政マン誰でも知っている。職員に対しても使える。

4　実例から考える成果の上げ方

・答弁調整（ヒアリング）で職員を動かす。　自治体職員も人間であり、議員に見せる顔と、普段の職務態度は異なり４つに分類できる。
自然職員「自発的、能動的に環境の変化に対応して、改善を提案・実施する。」
可燃職員「着火剤があれば動く職員」
難燃職員「ある程度の数の職員が動いてから追随する職員」
不燃職員「何をしても動かない職員」
・質問しっぱなしは厳禁、質問した後こそが大事。
行政が動いたときには、議場で職員を褒める
行政が動かなかったときには、議場で詰める。

○今回の研修動画を拝聴し、一年生議員として吸収するところがとても多く勉強になった。北上市、北上市議会は、どこのレベルの自治体に属しているのだろうか。議員は市民の声を聴き、行政に反映すること、一般質問等時は、担当課に出向き、話を聞くことが今更ではありますがとても重要と再認識しました。

高橋　孝二：研修日　３月２２日～３月２６日

これまで何度も一般質問と市当局からの議案提案の際に、本会議と常任委員会及び特別委員会等で質疑を行って来たが、改めてそれぞれの場での質疑の違いを確認できたことは有益であった。一般質問に限らず質疑する際は事前の準備が大変重要であることも再確認できました。

一方、北上市議会で行なっている、一般質問の通告前に、担当課にヒアリングすることについては、ヒアリングの内容にも因るが再検討が必要だと感じた。